

令和 8 年度「美術総合」シラバス

科 目 名		必修・選択	単位数	類型
美術総合		選択	2	共通（文型）
教科書	美術 2（光村図書）			

1 学習目標

美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を磨き、創造性を伸ばし、芸術文化についての理解を高めることを目標としています。

2 学習概要

美術総合の授業では、幅広い美術の分野の中から個に応じた研究と創作をし、長期間にわたってものづくりに取り組みます。まずは、自分自身が興味のある分野にフォーカスし、深く掘り下げてテーマの設定をし、1年間の制作を自ら計画します。最終的に高校生活の集大成となる作品に仕上げます。

一言で美術の分野と言っても大変範囲は広く、大別すると次のような分け方ができます。①ファインアート系（純粋美術表現）→素描、水彩画、油絵、版画、日本画、彫刻、オブジェ等。②工芸系→金属、七宝、漆芸、木工、陶芸、紙工芸、染色、テキスタイル等。③デザイン系→グラフィックデザイン、情報デザイン、工業デザイン、空間デザイン、WEBデザイン、建築デザイン等。④映像系→映画、CG、マンガ・アニメーション等。⑤パフォーマンス系→演劇、舞踊、パフォーマンスアート等。⑥学問としての美術→芸術学、美学、教育学、修復学、博物館学などです。

以上の美術分野の中から自分自身の方向性を見極め、最終的に形ある作品に仕上げていきます。創作する中では喜びとともに苦難も伴います。1年間、美術総合に取り組む中で、自己表現することの楽しさと難しさを味わい、作品と共に自らを成長させることがねらいです。

3 学習方法

まず初めに、自分自身の表現力や嗜好、これまでの創作経験などから自分自身が取り組むテーマを考えます。制作するものが決まったら、完成に至るプロセスを計画します。制作状況は、パソコンを使用して適宜、確認し、よりよい作品に仕上げるための個人指導を行います。完成した作品は、多くの人の目にふれるよう展覧会を実施します。

4 評価について

（1）評価方法

評価は、題材ごとに「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を念頭に行います。プランのプレゼンテーションや作品制作および発表の内容から表現を追求する姿勢や技術力・発想力等について評価すると共に、授業中の様子や制作に取り組む態度などを総合的に評価します。定期考査は行いません。

（2）評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

5 学習計画

学期	単 元 名	学習のねらい（内容のまとめごと）	考査等
一 学 期	・オリエンテーション ・自らの表現力を知る ・制作テーマの検討と決定 ・制作計画の作成	・美術総合の授業、全体のねらいを知る ・デッサン、水彩画、イラスト、写真などの表現方法により自分が持っている表現力を確認する ・制作テーマを考える（個別検討） ・月次の制作計画を作成する（個別検討） ・道具や材料の調達 ・ラフ案、エスキース、モックアップ、絵コンテなどにより構想を示す	ワークシート 作品提出 ワークシート 作品提出 ポートフォリオ
二 学 期	【制作の例】 デッサン 鉛筆画 水彩画 版画 油絵 絵本 木彫 塑像 ペーパークラフト 陶芸 ポスター デザイン画 金工 CG イラストレーション 建築模型 装 飾画 タペストリ WEBサイト キャラクターデザイン パッケージデザイン インテリアデザイン ファッションデザイン 舞台美術 フィギュア パフォー マンスビデオ アニメーション 他 ・中間発表会 ・作品発表	・制作の途中経過を発表する ・校外施設で展覧会を行う	発表 ポートフォリオ 展覧会の運営
三 学 期	・制作の振り返り	・1年間の創作活動の振り返りと今後の美術との関わり方を考える	ポートフォリオ